



認定看護師通信



2021年2月発行
Vol.33

コロナ禍でもがん検診を受けましょう！！

日本のがん検診の受診率は低く、たとえば乳がんや子宮頸がん検診では、欧米の受診率が70～80%に上るのに対し、日本は50%にも満たない状況です。さらに、今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、がん検診の受診者は激減していると報告があります。日本対がん協会が全国の支部に行ったアンケート調査で、「今年度のがん検診受診者は、例年に比べ3割以上減少する」と見込んでいる支部が、3分の2にのびりました。この状況が続けば来年以降、進行がんとなって見つかる割合が増すことが懸念されています。一般的に、がんは早期発見ほど治りやすく、発見が遅れるほど治療が困難になります。「コロナは防いだけれど、がんが進行していたとなつては、本末転倒です」と、同協会は言っています。 コロナ禍でも、定期的ながん検診を受けることは必要です。検診の貴重な機会を、どうか逃さないください。

指針で定めるがん検診の内容

種類	検査項目	対象者	受診間隔
胃がん検診	問診に加え、胃部エックス線検査又は胃内視鏡検査のいずれか	50歳以上 ※当分の間、胃部エックス線検査については40歳以上に対し実施可	2年に1回 ※当分の間、胃部エックス線検査については年1回実施可
子宮頸がん検診	問診、視診、子宮頸部の細胞診及び内診	20歳以上	2年に1回
肺がん検診	質問(問診)、胸部エックス線検査及び喀痰細胞診	40歳以上	年1回
乳がん検診	問診及び乳房エックス線検査(マンモグラフィ) ※視診、触診は推奨しない	40歳以上	2年に1回
大腸がん検診	問診及び便潜血検査	40歳以上	年1回



5つのがん（胃がん・子宮頸がん・肺がん・乳がん・大腸がん）は検診により早期発見でき治療で死亡率が低下するといわれています

<どの部位のがん罹患率が多いか、年齢による変化>



40歳以上で消化器系のがん（胃・大腸・肝臓）の罹患が多くを占めるが70歳以上ではその割合は減少し、前立腺がんと肺がんの割合が増加する



40歳代では、乳がん・子宮がん・卵巣がんの罹患が多くを占めるが、高齢になるとほどその割合は減少し、消化器系のがん（胃・大腸・肝臓）と肺がんの割合が増加する。また、子宮がん罹患率は20代後半から増え40歳代がピークになる。